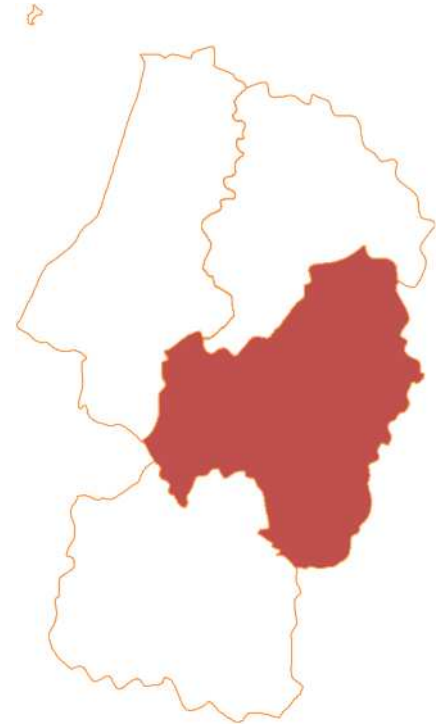


17 村山地域の発展方向（「第4次山形県総合発展計画」より抜粋）

<地域特性>

- 県内4ブロックのうち最も面積が広く、東南村山・西村山・北村山の各地域が特徴的な圏域を形成し、全体として村山地域が構成される重層的な構造を持つ。
- 県都山形市を有し、人口や総生産が県の約半分を占め、大学をはじめとした高等教育機関・研究機能、文化・スポーツ施設、高度医療機関等が集積している。
- 百万都市である仙台市と隣接しており、買い物や通勤・通学などにおいては、部分的に仙台都市圏と一体的な都市圏を形成している。
- 伝統技術を継承した地場産業や電子機器・食品・製菓など、幅広いものづくり産業が集積している。
- 都市の周辺を田畑や果樹園、里山が取り巻き、都市的環境と農村・自然環境が共存している。
- 東北中央自動車道と山形自動車道により高速道路網の縦横軸が形成され、宮城県や福島県、北関東や、最上・置賜・庄内の県内の3地域との高速道路ネットワークが構築されている。



<発展方向（目指す姿）>

- 教育・研究、文化・スポーツ、医療などの機能集積の強みを活かし、県内外から人材が集まり、人々が多様多彩に活躍している。
- ものづくり産業と大学や試験研究機関等との連携により、新たな産業のイノベーションが生まれるとともに、農業など地域の強みを活かした産業群の形成が進展している。
- 中核市である山形市を中心とした「連携中枢都市圏」の形成により、東南村山、西村山、北村山の3つの地域の連携のもとで、産業・観光の振興や生活利便性の確保など、それぞれの強みを活かした取組みが進んでいる。

<地域の発展に向けた主な取組み>

(i) 誰もが希望を持ち、生き活きと暮らし、多様な役割を担う「村山」の実現

- 地域に愛着を持ち、安心して子どもを産み育てることができるよう、市町やNPO、事業者等が広域的に連携した重層的で切れ目のない支援の取組みを強化していく。
- 多彩な産業集積と良好な教育・生活環境に恵まれた村山地域で働き暮らす魅力の発信により、若者の定着を促進していく。
- 山形大学や東北芸術工科大学などの高等教育機関との連携により、地域の活力を引き出す人材の育成を強化していく。

(ii) 「村山」の強みを活かし、交流や連携を基盤に持続的に発展する産業の形成

- 村山地域に集積する大学や試験研究機関、産業支援機関等と企業の連携により、技術革新や新事業創出などの地域イノベーションを促進していく。
- 紅花、蔵王・月山、最上川の景観・文化、雪、さくらんぼ等の果樹、そば・山菜など多様な地域資源の魅力の戦略的情報発信と新たな視点での組み合わせにより、仙台圏や北関東等からの誘客を促進していく。

- さくらんぼ等の果樹やイタリア野菜、山形セルリー等の村山地域の農産物の魅力発信と異業種との連携により、新たな商品・サービス等を創出するとともに、これを支える多様で力強い産地を形成していく。
- 西村山地域の「西山杉」に代表される豊かな森林資源を活かし、地域材の生産拡大と林工連携により、木材の利用拡大を促進していく。
- クアオルトやワインツーリズムなど、新たな時代や市場のニーズに応え、多様な交流を生み出す地域資源の磨き上げを強化していく。

(iii) 安全・安心な生活や、交流・発展を支える基盤の形成

- 東北中央自動車道などの高速道路網や、地域の道路ネットワークを構成する一般国道48号、287号、347号などの社会基盤を活かした、仙台地域をはじめとする宮城県、福島県や北関東等との人的・物的交流の拡大に向けた連携を強化していく。
- 豪雨や豪雪などの自然災害に強い安全・安心な地域づくりや、災害時に備えた村山管内の市町と宮城県内市町村との連携を促進していく。
- 多くの過疎地域を抱える西村山地域において、地域交通対策や郷土を知る取組みなどを推進していく。
- 県内でも有数の豪雪地帯を抱える北村山地域において、冬を安心して暮らせるよう、安全な除排雪作業の普及や雪処理の担い手確保などの雪対策を推進していく。